

浜松ホトニクス 知財業務AI実装へのロードマップ：「守り」から「攻め」の知財戦略へ

強固な知財基盤を活かし、生成AIを知財実務に統合し、「攻めの知財戦略」を実現する視覚的提示

強固な知財基盤：AI実装の出発点



全世界保有知財権 9,260件

(2025年10月時点、特許、実用新案、意匠、商標にわたる厚いポートフォリオがAI活用の母体)

バランスの取れた地域配分



教育とインセンティブの充実

2025年には129名が知財研修を修了
発明補償金の大幅引上げにより発明提案数も28%増加

知財プロセスへのAI統合（業務フロー）



発明提案・先行技術調査

- 意味検索、国面・画像検索、マルチモーダル要約により、調査リードタイムを大幅に短縮



出願戦略・IPL（知財ランドスケープ）

- ホワイトスペースの提案や競合監視にAIを活用し、経営軽視と連携した「攻め」の分析を行う



審査対応・権利管理

- 拒絶理由（OA）の軸索抽出やポートフォリオの可視化、バーチャルパテントマーキングの自動更新を支援



ライセンス・契約・侵害監視

- 契約書の棄却抽出やクレームチャートの一次作成を行い、法務・保争業務の証憑性と説明責任を担保

安全なAI活用を実現する「二層構造」

公開情報向け：外部SaaS



- 公開特許の検索・分岐に特化。検索速度と精度を稼ぐ



「人間中心」のガバナンス

- AIを発明者とせず、人間の警符を記録するログ管理と、出典視機の保持を徹底することで法規制（日米）に対応

機密情報向け：プライベートRAG



- 未公開の発明提案書や発明書を担う閉域環境。機密漏洩リスクを遮断



実行ロードマップと投資の目安

短期（PoC）



安全なPoC確立

- 公開特許の検索・要約の実証、AI利用規程の整備

300万～1,200万円

中期（実装）



業務フロー接続

- 発明提案、OA対応、契約レビューへの接続、閉域RAG導入

1,500万～5,000万円

長期（展開）



全社・海外展開

- 情報/FTO、ポートフォリオ最適化、海外子会社支援

5,000万～1.5億円